

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	オリーブハウス（放課後等デイサービス）		
○保護者評価実施期間	2025年 1月 7日 ～ 2025年 1月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○従業者評価実施期間	2024年 12月 1日 ～ 2024年 12月 28日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	曜日ごとに設定療育を設け、定着化することで個々の成長に繋げている。	交通ルールや運動能力の向上、金銭感覚等、社会で生活をする上で必要なスキルを身に付ける取り組みを行っている。曜日事に設定療育を行うことで、五領域を意識した取り組みや、各々の領域においての積み上げを行えるように意識している。	個々の発達や生活年齢を考慮しながら、成長のステージにあった内容になるようにチームで見直していく。
2	異年齢の小集団で過ごす練習を行いながら、年上、年下に対しての関わり方など、コミュニケーション能力を培い、人間関係や社会性を学ぶことができる。	年齢差のある児童と一緒に活動するときは、年上のお子様には責任感のある役割を設定し、役立つ自分や頼りにされる嬉しさをしっかり感じられるように意識的に行っている。年齢の低いお子様は、年上のお子様の様子を見ながら大きくなることの期待や憧れが持てるようにし、苦手なことにも挑戦してみたくなる環境を意識的に作っている。	異年齢集団を活用しながら、個々のニーズにあった設定療育の組み立てを行っていく。異年齢集団の強みを活かしながら、社会性を身に付ける支援を行っていく。同年代の児童との活動も大切に、同年代のお子様にも認められる経験が積めるようにしている。
3	保護者様からの相談が円滑に行えるような体制が整備されており、保護者様が悩み事等を相談できる環境である。お子様の学校やご家庭でのご様子の情報を職員間で共有しながら、ご家庭と共に一体的な支援を行っている。	管理者以外の直接支援の職員も保護者様と送迎時や電話等でコミュニケーションを取る事を日頃から心掛けている。円滑な人間関係の構築を意識しながら、保護者様が安心してご相談して頂けるように、管理者の指揮のもと信頼関係の構築を心掛けている。保護者様とコミュニケーションを取り、相談事など気兼ねなく話ができる関係性を構築できるよう努めている。 また、職員間で密に情報を共有し、事業所全体で支援している。	日頃から職員間で情報共有し、連携を図っていく。 また、外部研修等で更なる知識を身につけ、保護者や児童に寄り添った支援を行っていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	身体を動かす療育の時や自由時間の際に、利用児童の人数によっては部屋が狭いと感じる時がある。	中高生の利用児童が増え、療育内容や遊びにも変化が出てきた為。	広い場所で身体を動かせるよう、体育館を借りたり、公園に行くよう工夫する。
2	地域の子ども達との交流の機会が少ない。	学校終了後にすぐに放デイを利用する児童が多く、放課後や休日に地域の子ども達と接する機会が少ない。 学童などとの交流を持てるような、教育との連携が持てていない。	地域で行われているイベントに積極的に参加し、交流の機会を増やしたい。 行政機関などにも働き掛けながら、地域の学童との交流の場が持てるよう関係の構築を図る必要がある
3	下校時間や降所時に予定時間通りに送迎をする事が難しい場合がある。	児童の下校時間が重なった場合に、時間通りの送迎が難しいと感じる事がある。車の所有台数、人員配置の問題や、地域の小学校がクラス運営の加減で、保護者の方からお知らせ頂いた下校時刻通りでないことがよくある。	添乗員を配置したり、同法人から車を出したりしてそれぞれの学校に迎えに行くように工夫する。 帰りの送迎が難しい場合は、保護者様にご相談の上、送迎時間を変更していただく。